観光計画策定協議会　議事録

- 開催日時：2025 年 2 月 10 日　14:00-15:50
- 開催場所：おきのえらぶ観光協会　レクチャルーム
- 出席（敬称略）：
  - 協議委員：
    - オフライン：石田秀輝、金城良太郎、山口明日香、大谷慧、松山将人、福井優子、武元竹夫、松山将人、徳留健作
    - オンライン：藤井一（永野大吉の代理）
  - 一般社団法人ツギノバ　大久保昌宏
  - 知名町役場：大屋
  - 和泊町役場：沖田、衛守
  - 観光協会：西
- 欠席（敬称略）：
  - 古村英次郎、町田美子、福川勝久（根釜昭一郎から委員変更）

- 資料
  - 会次第
  - 資料１：骨子素案のたたき台
  - 資料２：第二次おきのえらぶ島観光基本計画（案）
  - 資料３：委員からのパブリックコメント
  - 資料４：完成版の観光基本計画に記載を検討している内容

- 議事
  - 第二次おきのえらぶ島観光基本計画素案の確認（大久保）
  - 委員からのパブリックコメントについて（観光協会）
  - 完成版の観光基本計画に記載を検討している内容について（観光協会）
  - その他（今後のスケジュール）

- 議事録
  - 第二次おきのえらぶ島観光基本計画素案の確認
    - 委員には事前にメールで基本計画案を提出し、パブリックコメントをいただいていた
    - 観光協会会員向けのパブリックコメントも同時に実施
    - 観光計画全体の内容と、理念・ビジョンの説明
    - 事業者ヒアリングや島民アンケートをふまえ、「島の暮らし」を大切にする観光を多くの関係者とともに行う

- 委員からのパブリックコメントについて
  - 誤字脱字の指摘いくつかあり
  - ミッション部分が「Pure」「Lifestyle」「Spitits」となっているがふりがなは「ピュアブランド」「ライフスタイル」「スピリッツ」。ならば「Pure」は「Pure brand」などにする方が良いのでは。
  - 最終的にどんな島をつくっていくのかが、書かれているビジョンからはよくつかめない。
  - 地球 1.2 個分で暮らしている現在の島の人たちの暮らしのすばらしさが伝わるものに。
  - 外向けに周知していくための計画なのであれば見た人をもっとハッとさせるビジョンに。

    ⇒「地球 1.2 個分」というフレーズをビジョンに取り入れることについて提案あり
    - 現在のビジョンは「観光」を変えていくための方法にスポットを当てている
    - 指摘の修正方向性は「観光」でどんな姿を目指すのか、ということだと理解した
    - 地球 1.2 個分というフレーズにはインパクトはあると思う。一方、島の人向けには説明が要るだろうと思う。
    - この観光計画はどちらかと言うと島の人たち向けに「一緒にやりましょう」というコンセプトでまとめてきた経緯がある。外向けにするのか、内向きにするのかによって選ぶ言葉は変わってくると思う。

    ⇒ビジョンを修正するか否かについては事務局内で再度検討し、最終版の観光基本計画において委員より意見を集めることとする。
- 完成版の観光基本計画に記載を検討している内容について
  - 現在提示している素案はビジョンとミッションまでで終わっているが、その先は以下の内容を入れていく予定。
  - 具体的なターゲット像、アクションプランと重点施策、計画の推進体制と効果検証体制。
    - 効果検証体制としてこの策定委員会が継続していくという捉え方で良いか？

    ⇒そう予定している
    - 「教育旅行」という書き方が少しひっかかる。上からの感じがする。

    ⇒「修学旅行」の意味合いで記載している。表現は変更していくことを検討したい。
- その他
  - 今後の予定
    - ３月中には全ての文章を完成させ、おきのえらぶ島観光協会令和７年総会でリリース予定。総会は５月末か６月初旬。委員の皆さんにも総会前には完成版のものをメール等で送付予定。対面会議を行うかオンライン上で意見のみを募るかは現在のところ未定。
      町決裁、観光協会役員決裁、委員決裁をふまえて最終決定となる。

- 開催日時：2024 年 12 月 3 日　14:00-15:50
- 開催場所：おきのえらぶ観光協会　レクチャルーム

- 出席（敬称略）：
  - 協議委員：
    - オフライン：古村英次郎、金城良太郎、町田美子、松山将人、徳留健作、山口明日香
    - オンライン：福井優子、大谷慧、藤井（永野大吉の代理）
  - 一般社団法人ツギノバ　大久保昌宏
  - 知名町役場：渡辺、大屋
  - 和泊町役場：沖田、衛守
  - 観光協会：西、浅野
- 欠席（敬称略）：
  - 石田 秀輝、武元竹夫、根釜昭一郎

- 資料
  - 会次第
  - 資料 1：おきのえらぶ島第 2 次観光基本計画の全体像と方向性のとりまとめについて
  - 資料 2：Island Plus に掲げていた施策(アクションプラン)の振り返り
  - 資料 3：各種観光アンケート（島民向け・行政職員向け・観光協会員向け）

- 議事
  - 進捗報告（観光協会）
  - おきのえらぶ島第 2 次観光基本計画の全体像/方向性と前回計画の課題振り返り（観光協会）
  - 各種アンケート（島民向け・行政職員向け・観光協会員向け）意見の共有について（観光協会）
  - 事業者ヒアリングから見えた傾向分析について（大久保）
  - その他

- 議事録
  - 進捗報告
    - 1 月上旬に素案を共有し意見、パブリックコメント収集→2 月上旬に修正案の議論→2 月中に完成を目指す
    - 観光協会会員向けにパブリックコメントを収集する
    - 策定委員からの意見を収集する
      - Web 回答できる方法となるか？
        - Google フォームで意見収集する
  - おきのえらぶ島第 2 次観光基本計画の全体像/方向性と前回計画の課題振り返り
    - 事業者ヒアリングにて 1 次の計画を知らなかったという声があり、ヒアリングを機に事業者さんが読み直してみたとのことだが、自分が関わりそうなところはわかったが、それ以外はよく

わからないとの声があった。全体像に記載されている 5 つのピラミッドはコンパクトにまとめられるのではないか？わかりやすくしていった方がよい。

- ◆ 島民全体で観光地経営をしていくのは興味深いが、ピラミッド構造において島民がどういう役割を担っていくのかがわかりづらかった。自分がどこに関わっていくのか、そこを明確に示すことで島民への浸透が深まると思う。
  - ● アクションプランで示していけるようにしたい。
  - ● 島民の関わりについては、島民の思いのグラデーションに合わせたアクションアイテムを考えるのが良い。

- ➢ 各種アンケート（島民向け・行政職員向け・観光協会員向け）意見の共有について
  - ◆ 観光について好意的な意見が多かった印象。
  - ◆ フリーコメントも厳しい内容があったが、真剣に考えているからこそと捉えた。
  - ◆ 今回のアンケートは今後も継続して回答を得続けるのか？内容としては興味深く、気づいていない人もいるのではと思い継続するのが良いと思った。
    - ● 今回のものはボリュームが多かったため、策定後はよりシンプルな内容で継続していこうと考えている。
  - ◆ 島民向け以外の協会会員、行政職員向けのアンケートはどんな状況か？
    - ● 協会会員は現在 26 件、個別に直接ヒアリングもしているので回答済みと捉えて未回答の事業者がいるのではないかと思う。
    - ● 行政職員は現在 48 件、100 件は目指したい。
  - ◆ 島民アンケートが現在 144 件だがこれはどう評価しているか？
    - ● 200 件は目指したい。
  - ◆ Q17 の「民間企業が主体となり・・・」の回答について、全体像で目指していた内容と島民の思いにギャップがあるのではないか？
    - ● Q12 の回答の通り、回答者はほぼ観光に携わっていない方が多いため、民間＝観光協会を指していると捉えている
    - ● 他地域では「行政が主体」という期待値が高いと推察する。それは観光協会が民間（＝自主的に稼ぐ）事業者として捉えられるのではないか。そういう意味での民間を選択したのではないか。
  - ◆ Q16 の「文化継承、島らしさ・・・」の回答の背景は、現状を継続するのか、ないものを発掘することを期待しているのかはどう捉えているか？
    - ● 後者を指していると思っている。
    - ● 移住者、島出身ではない方が島では活躍する機会が多いことから、その層が回答していると推察すると文化的な要素を大事にして欲しいというメッセージにも捉えられる。
    - ● 島の理想と現実が明確になっていると感じた。島に住み続けたいとの回答は 1/4 しかないことから、島の人は島の良さを認識していないことを示しているとも捉えられる。

- 事業者ヒアリングから見えた傾向分析について
  - 資料は全ヒアリング結果をまだ反映できていないものがあり途中経過のもの
  - 情報をたくさん得たが、自分でどう整理して落とし込んでいくか。
  - 文化に興味あるときに沖高の図書館に情報が詰まっている。昔の寄贈品が多くある。西郷隆盛の時代のものが残っている。それらを読んでいくと教育レベルが高かったことがわかる。現在の島民は知らないことが多いと思う。まだ語れる人はいるはずだから話を聞きに行きたい。沖永良部検定を作る等で文化人の育成、教育に盛り込んでいきたいと漠然と考えている。
  - 今後アクションアイテムが出てきてどう関わっていくべきかを考えていきたい。
  - 沖永良部島は知っていても実際に来ないとわからないことがたくさんあるが、来てもらい、どこを案内していくべきかを勉強していきたい。
  - 商工会では経営を支援する立場になるが、観光協会も対象となる事業者と同じ立ち位置とも言える。会員は還元してほしいだけではなく自分たちで取り組んでいくことも必要だと思う。
  - JAL の ESG 戦略で全国から優先地域を選抜するが、沖永良部島がエントリーしている。詳細はこれからだが、4 つの柱の研修を盛り込んだツアーを検討している。学びを提供する観光コンテンツを検討している。詳細は次回会議時に共有する。
  - 観光のターゲッティングについて、長期滞在型のコンテンツが作られているトレンドがあり、回答にそれがマッチしていると感じた。具体的なコンテンツ、既定のコンテンツだけではない柔軟性も求められているのかとも感じた。
  - ヒアリングした回答、回答者を計画にどう反映するか、巻き込んでいくかは気になる要素。
  - 環境省的に沖永良部の観光にキーワードはあるか？
    - 島民とつくるという部分では「インタープリテーション」はキーワードになる
    - 雲仙ではタクシー運転手までインタープリテーションができる育成を行なっている
    - 方向性によるが「アドベンチャートラベル」
      - 「地域の歴史、文化、自然に触れる」、「地域自体に対するインパクトを減らす」、「自分の殻を破る」の 3 つの要素
  - 物産事業者からの声が多かったが、それ以外の事業がどうか関わっていくのかは今後気になるところ。
  - 情報発信の課題は、さまざまなチャネルを使っているが、会員を巻き込んで、わかりやすい情報発信の取り組みに期待したい。
  - 商工会と観光協会の会員は重なる事業者が多いが、商工会として事業者とコミュニケーションとっていく必要があったと思った。
  - 自分ごとにしていくために何ができるのかを考え、体制を作っていきたいと思った。
- その他
  - 次回会議予定
    - 2 月上旬頃予定（素案への意見、パブコメを反映後、完成前に協議する）

- 開催日時：2024 年 7 月 22 日　11:00-12:30（キックオフ会議）
- 開催場所：おきのえらぶ観光協会　レクチャルーム
- 参加者：
  - 協議委員：大谷 慧さま、根釜 昭一郎さま、山口 明日香さま、古村 英次郎さま、金城 良太郎さま、福井 優子さま、武元 竹夫さま、町田 美子さま、武元 泰大さま（山元靖隆さま代理）、和泊町経済課 藤井さま（永野 大吉さま代理）
  - 一般社団法人ツギノバ　大久保昌宏さん
  - 知名町役場：渡辺補佐、大屋主査
  - 和泊町役場：沖田係長、衛守主査
  - 観光協会：西、池中

- 資料：
  - 【資料１】　沖永良部島観光基本計画策定協議会設置要綱
  - 【資料２】　第 2 次観光基本計画の策定方針
  - 【資料３】　本協議会の設置目的と協議会開催スケジュールについて
  - 【資料４】　第 1 次沖永良部島観光基本計画『Island Plus』
  - 【資料５】　事務局・関係先名簿

- 議事：

1. 本協議会の目的と策定の流れについて
2. 第 1 次沖永良部島観光基本計画『Island Plus』の振返りと第 2 次計画の方針について
3. 意見・情報交換

- 議事録

1. 本協議会の目的と策定の流れについて、に関するご意見

Q：大谷委員

作っていく計画にはインバウンドについても何か方向性などが織り込まれていくのか？

A：ツギノバ大久保さん

現在はまだ計画や方向性なども無い状態。アンケート・個別ヒアリング等で広く意見を収集していく。「インバウンドを推進した方がいいか？」と言う内容も各種アンケートには入れる予定。あくまでも島民や事業者からの意見を反映させながら作っていくことが大切だと考えている。

3.　意見・情報交換

大谷委員：

国も国立公園の上質化や国立公園満喫プロジェクトを推進している。沖永良部島も国立公園を活かした観光施策があっても良い。ずっといたいと思える場所の演出を行い、国立公園としての魅力を引き出せるような観光に取り組んでいただければ。

自然を活用していくことも大切だが、観光計画には観光資源としてどう守るのかという趣旨も入れていただきたい。保全の好循環を念頭に置いていただき、観光資源としての質が下がることのないようにしなければいけない。

計画なので予算についても織り込まれていくことと思うが、将来的には保全にもお金の循環がいくような流れを作れれば良いのでは。今回の計画にもそのようなコンセプトが入ればいいと思う。

徳之島にはエコツアーガイドに台湾出身の方がいる。世界自然遺産巡りをしたいというインバウンド層は存在する。徳之島はインバウンド観光客が増えつつあるように見えるが、島としての戦略は無い状態。

金城委員：

知名商工会青年部の部長をしているが、商工会青年部はイベントやってなんぼという意識がある。島には今イベントに関する戦略は無いと思うのでそういったものがあっても良いのでは。

自分自身の仕事としては鉄工所をしているので本土の下請けをすること多い。沖永良部は業者の来島が多いと思う。

観光客以外のところにも目を向け、ビジネス客向けのこととか、仕事で沖永良部に来た人に過ごしやすかったなと思ってもらうような取組みがあっても良いのでは。

山口委員：

第一次計画の内容を見て、島の人たちが島のいいところを知ってもらうような観光がいいなと思った。まずは島の人が幸せに暮らしていることなのかなと。そういう幸せな暮らしがあるということを島全体で発信していければ良いと思う。

町田委員：

特例通訳案内士として、IGO と言う団体でバスガイドなどもしている。先ほどインバウンドについての話があったが、通訳案内士のグループではこういった客層を増やし、頑張って取っていきたいねと話している。昨年はクルーズの寄港が 2 件あり、今年度も 1 件既に決まっている。

沖永良部島の良さは観光地化されていないとことだと思う。田舎ならではの良さ、昔ながらの島暮らしの良さがある。先日バスガイドの仕事で乗車案内をしていた際、本土から来られた方がジッキョヌホーで育成会の人たちが子どもたちと一緒にワイワイ遊んでいた光景に感動していた。「こんな暮らしがこの島にはまだ残っているのか」と。

農業などについても、農家さんたちはこれまであまり観光に関わる場面少ないと思うが、観光客は「もうちょ

っと話聞きたいけど」と思っている。農業だったり島の産業だったり普通の暮らし、昔ながらの暮らしをもっと観光に活かしていきたい。

福井委員：
JAC としては 2 年前から「環境保全ツアー」を企画しており、環境学習として大学生を島に呼んでいる。古村座長、武元委員にもこのツアーには関わっていただいた。
都心部から来る大学生たちにとっては、沖永良部島のような自然豊かなところに来て環境学習をするというのが大きな価値があり、自分としても可能性を感じている。今後もこのような環境学習をするツアーをもっとできたら良いと思う。離島というミニチュアサイズでカーボンニュートラルを目指しているところが、JAL の中でもすごいなと話題に上ることがある。まだ個人的なアイデアであるが、例えば JAL ベース, 拠点となるようなものをつくる、なども社と一緒に考えていければ良いのではと思う。そういう拠点があることで、より一層島民の方々と協議しながら進めることもできるのかもしれない。企業連携の切り口も探したいなと思う。

町田委員：
福井さんの話を聞いていて、大学生たちがすごく島に価値を感じてくれているということで、島の人たちと関わることで島のことを好きになるのではないかなと思った。
今残念に感じていることは、島の人たちが島のことを知らないということ。数カ所観光地、景勝地のことは知っているが、それ以外のことを観光客にほとんど説明できなかったりする。
島の文化や方言、踊りとか暮らしとか、島の人たちに島のことを伝える機会をつくるということも計画に入れていければ良いのではないか。

経済課藤井さん（永野委員代理）：
自分の関わっている業務の中で言うと、農泊やグリーンツーリズムという話が出ることはあるが、町としてはまだ取り組んではいない状態かなと思う。
観光に関わらせることができるかは分からないが、農業で言うとずっと労働力不足ということが言われている。関西の大学生を呼んで農業インターンとして短期間働いてもらったり、農家さんに宿泊先になってもらったことはある。農業の労働力不足と観光を関わらせるようなことを町全体の取組みとして考えていくのも良いのではないか。
直接的な観光としてではなく、労働力、インターンとしての関わりとしての関わりを深めていければ。

鹿児島銀行　武元さん（山元委員代理）：
※山元委員は異動のため後任の沖永良部支店長が委員を受けてくださることとなっている。
鹿児島銀行には地域支援部という部門がある。ここまでお話を聞いていて、そのような部門と連携して他自治体の取り組みについて情報提供を行うなどはお役に立てる部分もあるかもしれないと感じた。
その他で言うと、今回のような観光計画を策定することや、その計画事業を廻していく際にはやはり資金が必

要になると思うが、不足する資金についての借入相談や補助金等の情報提供などの支援を行うことはできるため、このような部分には積極的にお手伝いをさせていただきたいと考えている。

根釜委員：
私は共に創る、「共創」という言葉がとても好きで、今回の計画もみんなで一緒につくるものなのだろうなと思った。説明の中では 1 次計画はうまく転がらなかった部分もあったという話があったが、どこか一団体や一組織だけでやろうとしても無理な話で、結局のところ計画づくりにもその後廻していくことにも島人をどれだけ巻き込んでいけるのかが大事だと思う。
議員という立場上、よく行政や他団体の計画づくりの場に呼ばれることも多いが、誰かに依頼してただ作っただけの計画では、完成したとしても自分たちの計画ではなく「あの人たちの計画」になってしまうことが多い。自分事に思ってもらえるように、島の人をどう巻き込んでいくのかを重要視していってもらいたい。

福山副会長：
事務局の説明の中にも根釜委員のお話にも「みんなで作る」という話があった。沖永良部島には観光地はそれほど多くは無い。見に行く「場所」だけを作ろうとしてもうわべだけになってしまう。
仕事で与論に行く機会が多いが、与論島の人たちは観光客に対して「おかえりなさい」と言うのに驚いた。沖永良部島でもそういう、「おかえりなさい」の気持ちが伝わる言葉を島の人たちが観光客に対して自然に使っていってくれるようになればいいなと思う。
前事務局長が局長時代に、写真撮るときに行うエラブポーズを島の中に定着させた。今でもたくさんの人が使ってくれている。そういう風に今度は、「おかえり」に似た言葉が島内の中に浸透していったら良い。

武元委員：
JAC の環境学習の話があったが、そのツアーのときやその他関係者の紹介で島外の方を受け入れた際、農業を全くしたことない大学生が自分の仕事を体験してくれ、夜は島の人たちと呑んで楽しんでくれたときに、やってよかったなという気持ちになれた。今後も自分なりに島の人たちの良さを伝えるような関わり方ができればいいなと思う。